

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 4 月 11 日

事務事業名		叙勲栄典申請事務				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	060301001000
						単独/補助	単独		010101
政策体系		政策体系上の位置付け				主要事業		所属課	秘書広報課
総合計画の施策名		0603 時代に合った自治体運営				市長マニフェスト		グループ	秘書広報G
政策名		06 みんなで築く自治のまちづくり				未来PJ事業			
施策名		03 時代に合った自治体運営				合併建設計画事業			
手段名		01 ①計画的な行政運営				事業期間			
		財務会計上の位置付け				単年度繰返し (平成17年度~)			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	02	01	04	00	00	← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入		
法令根拠	日本国憲法								

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<ul style="list-style-type: none"> 地方自治に功績のあった市民で叙勲(褒章)の対象となる者の中から、基準により選ばれた方を担当課に推薦する。 叙位については、叙勲受章者(双光章以上)が死亡した場合、死亡叙勲については叙勲対象者が死亡した場合に担当課に内申する。 ◎春秋叙勲:市長4年以上、市議会議員15年以上で、功績顕著な者で満70歳以上の元職。 ◎高齢者叙勲:市長4年以上、市議会議員10年以上で、未だ勲章を授与されていない者が、年齢88歳に達した機会に授与される。 ◎死亡叙勲:市長4年以上、市議会議員10年以上で、未だ叙勲されていない者。 ◎紺綬褒章:公益のため私財(個人500万円以上、団体1000万円以上の財貨)を寄付した者(団体) 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の把握、推薦、内申 受章者への伝達

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
<ul style="list-style-type: none"> 春、秋の叙勲に際して、該当者の調査・内申 叙位、死亡、高齢者叙勲は随時 内申書類として、功績調査、履歴書を作成 受章者に対し、市長から伝達 	推薦・内申件数	件	4.00	3.00	3.00	2.00	2.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
桜川市民 (叙勲の対象となる者、基準により先行された者)	桜川市人口	人	42,000.00	41,278.00	41,008.00	40,738.00	40,467.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
候補者を顕彰するため適正な申請事務を行う	申請者のうち叙勲等に結びついている割合	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費	財源内訳	項目	単位	28年度	29年度	30年度	期間限定 総投入量
					(実績)	(実績)	(計画)	
			国庫支出金	千円	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0
			使用料・手数料	千円	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0
			一般財源	千円	0	0	0	0
			事業費計(A)	千円	0	0	0	0
人件費			正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人	
			述べ業務時間	時間	0.00	114.50	120.00	
			人件費計(B)	千円	0	335	351	
トータルコスト(A)+(B)				千円	0	335	351	

29年度事業費 実績(千円)

30年度事業費 予算(千円)

事業費の内訳							
		合計		0		合計	

(4) 当該年度の実施内容

30年度の事業内容

31年度の事業内容

32年度の事業内容

※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する

- ・主要事業
- ・市長マニフェスト
- ・未来PJ事業
- ・合併建設計画事業



事務事業名	叙勲栄典申請事務	事務事業No.	60301001000	所属課	秘書広報課
-------	----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 生存者叙勲については、国の制度として昭和39年に再開された
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特にない。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 叙勲制度に基づくものであり、市民と行政による豊かな地域の自治づくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 国の栄典制度に基づくものであり、市が行うことになっている。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 国の基準によるものであり、現状の基準どおり行わなければならない。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 叙勲を受けられなくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない ほかの手段はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 事業費はない。業務時間は、対象者が多ければ増えるので、削減は難しい。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 受益者負担はなく、公正公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括（振り返り、反省点） ・平成29年度は、春秋叙勲で1件、高齢者叙勲で1件、死亡叙位・叙勲で1件、死亡叙勲で1件内申し、全て勲章が授与された。 ・内申の際の功績は、市で把握できるものばかりではないところがあるので、新聞等から目が離せないところがある。																						
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○	×	維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○	×																			
	維持																						
	低下																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							
(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																							

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A:継続（現状維持） C:終了、廃止、休止 B:継続（改革改善を行う） D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合） 確認欄 <input type="checkbox"/>
--	--